

## 「2023年度中国・浙江大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学法学部3年 手塚 寧々

## 【語学力の変化】

渡航前、私は第二外国語として2年、その後HSKなど資格取得のための勉強を1年行っており、中検3級・HSK5級を取得していた。3年間勉強していたことになるが、勉強は単語の暗記とリーディングが中心で、特にリスニングやスピーキング能力には全く自信がなかった。

浙江大学での授業は、渡航前のクラス分けテストに応じたもので、私はレベル4のクラスだった。しかし、先生の話している内容はほとんど聞き取れないばかりか、クラスメイトと話をすることさえおぼつかなかった。授業は口語、阅读、精读、写作の4種類あり、口語は非常に難易度が高く感じた。一方で、それ以外については内容も比較的理解しやすく、授業が進むにつれて先生が話している内容もなんとなくわかるようになってきた。

2週間で語学力が飛躍的に伸びたわけではないものの、聞き取ること、話すことへの苦手意識は薄れたように思う。

## 【意識の変化】

私はもともと非常に人見知りで、新しいことに挑戦することに慎重な性格だった。今回のプログラムに参加するにも、非常に悩んで何度もやめようかなと考えていた。だが、今回の渡航を経てこの性格に大きな変化が起きたように思う。

まず、人に話しかけることをためらわなくなった。クラスメイト達は非常に親切で、英語でも中国語でも会話に支障をきたす私に対してもたくさん話しかけてくれる。また、同じ日本人同士でも京大生や東大の方とのつながりが増えた。今回のプログラムに参加しなければできなかった人脈だと思う。

中国に対する意識も変わった。思っていたよりもずっと発展しているし、日本のことが好きな中国の方とも出会えた。私は中国語を勉強していながらあまり中国のことを知らなかったのだが、もっと知りたいと思うようになった。また、他の国の人たちは日本のことをよく知ってくれているのに、私は彼らの国のことをほとんど知らないことを恥ずかしく思うようになった。もっと世界のことに興味を持ちたいと思う。

## 【プログラム外の過ごし方】

主に午前にある授業と、週に2回ある合同プログラムの他は自由時間だった。自由時間には大学周辺を散歩したり、親切的な留学生の方と食事したりした。また、週末には京大生の友人と上海・南京に出かけたりもした。主な交通手段はバス・地下鉄・タクシーであり、いずれもアリペイのような電子決済が便利である。公共交通手段は時間に正確で表示もわかりやすい。使用頻度としては、タクシー、地下鉄、バスの順であった。上海に行く際は高铁を使用。パスポートの登録など手続きが必要なため日本と比べるとだいぶ面倒だったが、慣れればすぐ使えと思う。

## 【プログラムに参加していて困ったこと】

お金については、現金もいろんな場面で使えるし、アリペイもクレジットカードと紐づければ使えたのでほとんど困ることはなかった。

予想していなかったのは、思いのほか中国の電話番号が必要な場面が多いということだ。私はデータローミングを使うので、日本の電話番号をそのまま使っていた。しかし、それだと寮内のコインランドリーや旅先のコインロッカーが使えなかったり、オンラインチケットが購入できなかったりと様々な場面で不便を被ることになった。京大生の中に電話番号付きの中国SIMを持っている人は数名しかおらず、期間中その人たちに頼りきりになってしまったので参加しようとしている人はできれば電話番号付きSIMを用意しておくのがよいかと思う。

&lt;事務局使用欄&gt; 受付番号:

-

それから、寮は毎日清掃が入ると聞いていたのだが、コロナの影響でそれは廃止されたらしい。3, 4日に一度ゴミ袋の交換と床掃除が入るが、バスタオルなどの交換はなかったため、そこでも少し困った。ただし寮近くにスーパーがあるので、日用品は気軽に購入することができる。